

産学官連携による物流施策推進体制の構築

～物流の高度化・次世代物流の実現～

1 背景

- 少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、トラックドライバー不足が顕在化しており、今後、更に進展していくことが予想されている。
- トラックドライバーの年間労働時間は、全産業平均と比較して、約2割長く、働き方改革を進める必要がある。長時間労働の一因には、荷待ち時間の発生と荷役作業（積込み、取卸し）の発生が大きい。
- 政府は、2050年カーボンニュートラルと2030年温室効果ガス46%削減（2013年度比）することを宣言した。2018年度の運輸部門のCO₂排出量は、全体の18.5%を占めており、排出量削減に向けた取組が求められている。
- 物流施設における業務は、保管のみならず、ピッキング、加工、梱包等、多機能化しており、それに伴い雇用も生まれているが、人材の安定的な確保も施設立地の重要な要素である。また、物流施設へのアクセスの確保など従業員、アルバイトが働きやすい労働環境等、ニーズが高度化している。
- 労働力不足や労働環境の改善等への対応のため、物流業界のDXを積極的に推進する必要がある。物流DXの実現のためには、物流現場の課題を把握するとともに、先進技術等も活用した物流の高度化のため、企画・提案できる人材の育成が必要である。

2 取組の方向性

- 物流の抱える諸課題の解決や、次世代を見据えた持続可能な物流を実現するため、物流に携わる事業者、有識者、行政で構成する「(仮称)物流懇話会」を設立する。
- 勉強会やシンポジウム等を通して、物流の抱える課題の共有や、その解決のために必要な方策を深化していくとともに、課題解決に向けた機運の醸成を図る。



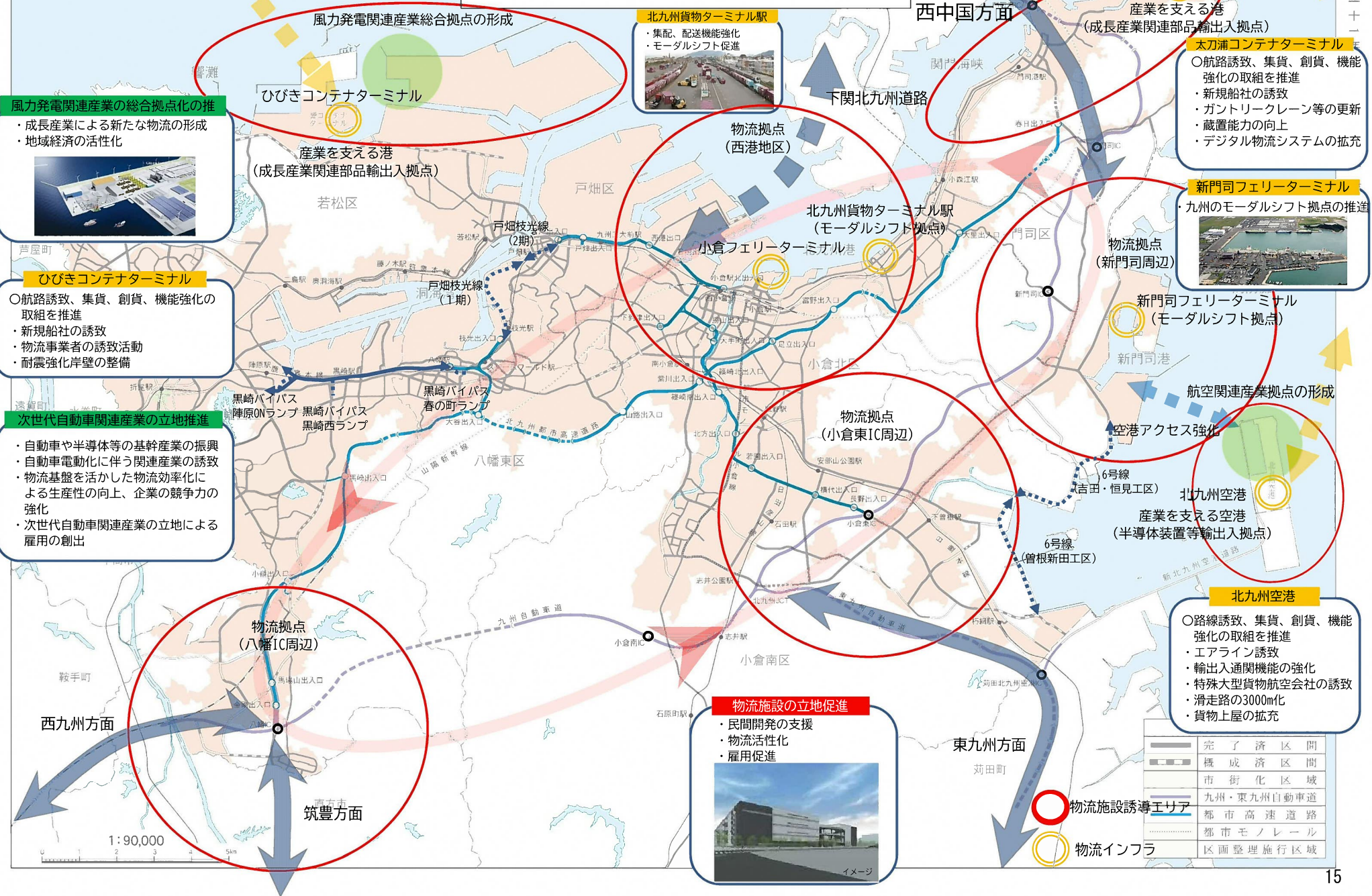
3 今後の取組み(案)

○ 物流施策推進体制の構築「(仮称) 物流懇話会」の設立

「(仮称) 物流懇話会」において、以下のテーマでシンポジウムや勉強会を実施

- 輸配送の効率化・生産性の向上
 - パレット化の推進
 - ロボット等の導入支援
- 次世代物流の実現
 - 次世代物流プロセスにおける開発支援
- 物流人材確保・育成
 - 働き続けられる環境の整備支援
 - 交通アクセス確保の支援
 - リカレント教育支援

物流活性化プロジェクト



風力発電関連産業総合拠点の形成

風力発電関連産業の総合拠点化の推進

- ・成長産業による新たな物流の形成
- ・地域経済の活性化



ひびきコンテナターミナル

産業を支える港
(成長産業関連部品輸出入拠点)

ひびきコンテナターミナル

- 航路誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
- ・新規船社の誘致
- ・物流事業者の誘致活動
- ・耐震強化岸壁の整備

北九州貨物ターミナル駅



物流拠点
(西港地区)

北九州貨物ターミナル駅
(モーダルシフト拠点)

小倉フェリーターミナル

物流拠点
(小倉東IC周辺)

太刀浦コンテナターミナル

産業を支える港
(成長産業関連部品輸出入拠点)

- 航路誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
- ・新規船社の誘致
- ・ガントリークレーン等の更新
- ・蔵置能力の向上
- ・デジタル物流システムの拡充

新門司フェリーターミナル

九州のモーダルシフト拠点の推進



新門司フェリーターミナル
(モーダルシフト拠点)

航空関連産業拠点の形成

空港アクセス強化

北九州空港
産業を支える空港
(半導体装置等輸出入拠点)

北九州空港

- 路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
- ・エアライン誘致
- ・輸出入通関機能の強化
- ・特殊大型貨物航空会社の誘致
- ・滑走路の3000m化
- ・貨物上屋の拡充

物流施設の立地促進

- ・民間開発の支援
- ・物流活性化
- ・雇用促進



物流施設誘導エリア

物流インフラ

	完了済区間
	概成済区間
	市街化区域
	九州・東九州自動車道
	都市高速道路
	都市モノレール
	区画整理施行区域